

# 1. 学生とともに進める まちづくり



第7回 幌北ミニミニ雪まつり（平成26年1月26日、札幌市立幌北小学校）

# 1. 学生とともに進めるまちづくり

## “北大YOSAKOIチーム×鉄西”が生み出すまちづくり活動

鉄西まちづくり学生推進委員会 会長 ささき 佐々木 りょうた 良太

私は小学生のころから高校まではずっと野球少年だったため、大学では何か新しいことがしたいと考えていました。そう考えていた入学当初、大学の新生歓迎イベントで先輩に誘われたことが現在のサークル（「まつりんちゅテスク&祭人」という北海道大学のYOSAKOIチーム）に入るきっかけでした。私の家は北海道の北広島市で、札幌市との関わりは薄く、入った当初は「鉄西地域」と言われてもどこの地域を指すのかもわかりませんでした。しかしこの団体で鉄西地域の温かさに触れるにつれて、この地域がどんどん好きになっていきました。連合町内会の方々や地域の子供たちとの活動はどれも楽しく新鮮で、沢山の経験を積みさせていただきました。今年で鉄西地域との関わりは3年目になりますが、この3年間は私の人生で大きな意味を持つものになりました。



春のYOSAKOI披露「鉄西披露会」

私たち鉄西まちづくり学生推進委員会は「テスク&祭人」「北海道大学“縁”」という二つのYOSAKOIチームから構成されています。同時に鉄西連合町内会青年部にも所属しており、連合町内会の方々と協力しながら鉄西地域を盛り上げるべく活動しています。春は地域住民の方々にYOSAKOIの演舞を披露させていただいています。平成26年は悪天候のため残念ながら中止となってしまいましたが、

平成25年の演舞披露後に「すごく楽しかった」「応援しているよ」との言葉をいただき、とても嬉しかったのを覚えています。

夏から秋にかけては、子供たちと一緒に鉄西地域の危険な場所を調査する安全マップの制作や、鉄西夏祭りへの出店とお手伝いなどをさせていただいています。これらの行事では、子供たちのパワーには振り回されることもあります。逆にそのパワーにいつも元気をもらっています。すっかり子供たちと仲良しになり名前を憶えられているメンバーもいます。



子ども安全マップづくり

さらに秋には、私たち鉄西まちづくり学生推進委員会主催の「もっとにっこり!! 鉄西秋祭り」があります。お祭りは私たちの団体が発足したきっかけでもあるお祭りで、最も力を入れている活動です。運営、企画、出店、広報など全てを自分たちでプロデュースし、協力し合いながら毎年開催しています。北海道各地の特産品を出店してもらったり、餅まきやビンゴ大会が目玉の企画となっています。

残念ながら平成25年は雨でやむを得ず中止となりましたが、翌年の平成26年は無事に開催することができました。お祭りを開催するにあたり、



多くのお店や企業から協賛をお願いしています。不況の最中協賛してくださる皆様には感謝してもしきれません。その甲斐あって多くの方に足を運んでいただき、中には「毎年楽しみにしているよ」との声もいただきました。普段お世話になっている鉄西地域に何か恩返しをしたい、自分たちで地域を盛り上げたいとの思いから始まったお祭りですが、これからもこうした想いを受け継いで秋祭りを開催していきたいです。



鉄西秋祭りの様子

冬は毎年2月に大通公園で開催される「さっぽろ雪まつり」に雪像制作という形で参加させてもらっています。鉄西地域にまつわるテーマで中雪像を制作し、より多くの人に鉄西地域をPRさせてもらっています。なかなか雪まつりに雪像を出展する機会はなく、この雪像制作に惹かれて入った学生もいるほど毎年楽しみにしているイベントです。過去には鉄西地域に昔機関車が通っていたことから「鉄西トレイン」を作ったり、北海道大学の建物ということで農学部や工学部の棟



さっぽろ雪まつり雪像作り（北大工学部旧校舎）

を作ったりしました。

こうした活動は、私たち大学生にとって学業だけでは身につかない知識や経験を身につける貴重な場ともなっています。幅広い層の方との交流は様々な価値観や知識に触れることができますし、お祭りなど大きなイベントを作ることは、アイデアを出し合い実際に運営し成功させる達成感や充実感を得る絶好の機会でもあります。

私たちが様々な活動ができるのも、地域の方々を始め、温かく笑顔で私たちを迎えてくれる連合町内会の皆様、そして親身になって相談に乗ってくださる鉄西まちづくりセンターの支えや応援があってこそです。こうした絆は歴代の先輩たちが積み上げてきたものであり、未来の後輩たちへと繋げていくべきだと思っています。

鉄西地域は学生の人口が多い地域です。この学生のパワーを結集させ、地域の方々と協力し合うことで鉄西地域はまだまだ盛り上がっていくと思います。学生には鉄西地域の魅力をもっと知ってもらい、地域の方々に元気をお届けする。こうして学生と地域の架け橋になるべく私たち鉄西まちづくり学生推進委員会はこれからも精進して参ります。どうぞよろしくお祈りします。

○お問い合わせ

鉄西まちづくりセンター

TEL.011-726-5285

# 1. 学生とともに進めるまちづくり

## 地域に根を下ろして～ NeoLos 幌北の活動～

学生と地域で考えるまちづくり会 (NeoLos 幌北) 代表 ぬのや 布谷 むつみ 睦

私たち NeoLos 幌北は、今まで幌北地区の住民としてまちづくりに関わる機会が少なかった学生が、学生らしい視点とパワーをまちづくりに還元しようと地域の方と学生で組織された団体です。主な活動内容は、留学生交流事業、地域との交流事業、情報発信事業の三つを柱としています。

一つ目に、留学生交流事業について紹介します。この事業は幌北地区に住んでいる留学生にもっと幌北が楽しくなるように、地域の方がもっと留学生の国の文化や歴史を知ってほしいとの思いで平成 19 年度から実施しています。今年度は、メンバーに中国人留学生が在籍しているということから、六月下旬に「中国」をテーマに交流会を行いました。今回は最初に外で中国の小学生、中学生が学校でやっているという日本のラジオ体操のような体操を留学生から教わり、一緒に運動をした後、屋内へ移動し、中国に関するクイズや留学生と日本と中国の違いについて話し、交流しました。体操はラジオ体操よりも難しく、動きも激しかったので、学生、地域の方、ともに良い運動になったと思います。中国に関するクイズや留学生との会話では、留学生も地域の方も互いに自分の知らないことが多く有ったようで、思っていた以上に盛り上がったのでとても嬉しく感じました。また、屋内に入ってから留学生と学生が選んだ中国のお茶やお菓子を数種類用意し、自由に飲んだり食べたりできるようにしました。お茶はもちろんおいしく、お菓子も食べやすいもので、好評でした。この交流会を通して留学生に少しだけかもしれませんが、地域に対して親しみを持ってもらうことが出来たのではないかと思います。



中国人留学生交流会の様子

二つ目に、地域との交流事業について紹介します。この事業では、地域とのイベントに参加したり、NeoLos が主体となってイベントを企画、実施したりしています。今年度は幌北地区の大きな行事である幌北ふるさと夏祭り、今年は町内会と初の共催となる予定だった冬のつどい&ミニミニ雪まつりが悪天候のため中止になってしまい、とても残念な年になりました。ただ、これらのイベントの準備の段階でも学ぶことが多くあったと思っています。地域の方には、学生だけでは考えられなかった細かい点も指摘していただき、「こんな視点もあるんだ」と気づかされることが多くあり、自分たちはまだまだだなあと感じる場面が多くありました。





児童会館の子どもと交流を深めています！



冊子やマップで地域の情報を発信しています！



地域のイベントにも参加しています！



作成した防災マップは幌北小学校に寄贈しました



秋にはウォーキング大会を開催しました

三つ目に、情報発信事業について紹介します。この事業は、幌北地区に関する情報を住民の方々へ伝えることを目的として行われています。今年度の取り組みとしては、『ほらほら幌北 vol.2』の年度内の改訂を目指して現在作業を行っています。2009年に発行されたこの冊子は、「地域の活動」がテーマで、内容は幌北で活動している団体やサークルの紹介となっています。この冊子が発行されてから五年も経ったということで、今回改訂版を発行することになりました。改訂作業は各団体に直接連絡を取り、原稿の確認を取るといった非常に地道な作業でしたが、担当者が頑張ってくれたお

かげで現在、サンプルが出来上がり、各団体に最終確認という段階に入りました。この冊子を通して、幌北地区に住む方々にこの地区にどんな団体があって、どんな活動をしているのかを知ってもらい、今まで地域の活動に参加してこなかった人たちも興味のある活動に参加してもらえらるきっかけになればと思います。

最後に、今年度の活動に関して、まだまだ改善の余地があったと思います。学生だからこそできるような活動があまり多くできず、学生の力を地域へ還元させられなかったように感じます。来年度は、学生だからこそ出来る、学生に地域の良さをもっと知ってもらえるような活動を展開できればと思います。

○お問い合わせ

幌北まちづくりセンター

TEL.011-726-6345

# 1. 学生とともに進めるまちづくり

## 武蔵女子大生の新たな挑戦

～笑顔と楽しさをモットーに、緑あふれる明るいまちを目指して～

北海道武蔵女子短期大学ライラック学生会執行部 ボランティア委員会 委員長 むねいし まさみ 宗石 雅美

### 【はじめに】

私たち、北海道武蔵女子短期大学ボランティア委員会では、地域社会との交流を重点におき、大学周辺のボランティア活動を率先して行っています。また、ボランティア活動の経験を通して、その楽しさややりがいを武蔵の学生全体に広めていくことを目的としております。

日々の活動としては月に一度、大学から北24条駅にかけてのゴミ拾い、町内や区役所で行われるイベントの参加です。百合が原音楽祭の運営に携わったり、北☆ガクアートフェスティバル実行委員として他大学と共にイベントの準備を進めました。その他、北警察署の方とともに防犯の呼びかけ運動、町内の方と花植え・子ども神輿祭り・アイスクャンドル作り、ちあふる・きたのボランティア参加など活動は多種にわたりおこなっています。

地域の皆さんとの交流は私達学生にとっても、刺激的でボランティア活動ひとつひとつが学びにつながっていると感じます。



北☆ガクにてバルーンアート作り



町内の子供たちと神輿をかついで練り歩きました



軍手をはきゴミ袋を持って、いざごみ拾いへ！

### 【花まちづくりプロジェクト】

平成26年は新たに「花まちづくりプロジェクト」という試みにも挑みました。これまでは何かに特化して活動するというよりも、地域ですでに決まっている活動のお手伝いをするのが多くありました。「武蔵の学生が主体となって自ら地域のために役立つ活動を実施していきたい！」「今年から新しい一歩を踏み出したい！」という熱い思いからこのプロジェクトを実施いたしました。

### 【プロジェクトの具体的内容】

大学の校門近くに、主として多年草であるアナベル、亜麻、ハーブ類を植え、本学外構管理の造園業者や北区土木センター職員の方々のご指導のもと少しずつ花壇の範囲を広げていこうと思っています。将来的に育てた亜麻から採取する種やハーブを株分けしたものを、市民の皆さんにプレゼントし、花を通して交流を深めていきたいです。

学生たち自らが進んで花を育て、緑豊かな街並みの形成を目指し、かつ地域の方々とより密接に交流を図るとともに、花の種、株の収穫及び配布を通してこの活動と花の街並み形成の広がりを目指していきます。



### 【皆さまの支えにより】

初年度は、土木センター職員の方々、北区役所地域振興課の方々のご協力のもと花を咲かせることが出来ました。最初ということもあって苗が枯れないよう毎日の水やりは欠かせず大変な面もありました。まだ大きくないので猛暑の日には葉に元気がないこともあり、特にアナベルは咲くかどうか心配していました。委員56名全員が交替で管理した甲斐あってきれいな花を咲かせ、日々私たちの活動を見てくださっていた地域の方から「咲いて良かったね」「毎日頑張っているね」と嬉しいお言葉いただきました。花の数はまだ少なく、地面の土色が目立ちましたが今後はより大きく成長した多年草のアナベル・亜麻・ハーブを地域の皆さまに見ていただきたいと思っております。



6月ごろから  
プロジェクト  
開始



力を合わせて  
苗植えをしました。

### 【ボランティア活動を通して】

わたしがボランティア活動を始めたきっかけはごく単純でした。友人に誘われて興味本位で参加したことから、誰かに「ありがとう」と言われる嬉しさと、自分のやりがいを求めてまた参加するようになりました。

大学では、同じ年代の学生と話すことがほとんどですが、ボランティアに行くと年齢も様々で今までにあったことのない人との出会いがたくさんあります。価値観や考え方の違いに気づかされることもあって、そのたびに自分の世界観が広がったような感じがしました。

今後たくさんの人に笑顔を届けるため、そして二年間という短い学生生活でしか得られないものを求めて、私たちは日々いろいろなことに挑戦していきたいと思います。今できることを最大限に楽しみながらこれからも武蔵の学生はがんばります。



私たちが活動できるのは地域の皆さまあってこそです。  
今後ともよろしくお願いたします。

#### ○お問い合わせ

北海道武蔵女子短期大学  
札幌市北区北22条西13丁目  
TEL.011-726-3141  
メール  
volunteer.hmjc@gmail.com

# 1. 学生とともに進めるまちづくり

## 北24条商店街と学生との連携によるまちづくり

北区市民部総務企画課



北24条商店街の「サンQ青果」（中央市場）をリサーチする武蔵女子短期大学の学生の皆さん

### 【商店街に学生のパワー】

これからのまちづくりは、地域にある資源を「再発見」して、それを活用していく「内発的な発展」が必要です。北区には、市内でも有数の大学が立地し、若い力をまちづくりに生かしていく恰好の条件が揃っています。

また、地域のまちづくりの主役の一つが商店街です。特に、北24条商店街のエリアは、交通の拠点にあり、多種多様な店舗が軒を並べています。地元町内会などと構成する「スローライフ・イン・にーよん」の主要メンバーでもあり、これまで、地域の花植え、夏祭り、アイスクャンドルナイト、音楽祭など様々な事業を展開しています。

本項では、学生との連携による新しい取り組みを二つ紹介します。

### 【商店街フレッシュ事業】

まず、一つ目は、地元の武蔵女子短期大学と連携することによって、魅力あるまちづくりの推進と地域経済の活性化をはかる「北24条商店街フレッシュ事業」であり、平成26年の夏から秋にかけて実施されました。

同大学は、子ども図書館の開放や町内会のお祭りでの地域交流などを図ってきましたが、多くの学生は、通学で北24条駅を利用するにもかかわらず、商店街との関わりはあまり深くありませんでした。大学としても実際の経済活動を体験する場を求めており、北区役所も中に入って、商店街魅力プロジェクトとして本事業が実現しました。

参加したのは、教養学科ビジネス教養課程の高橋専門ゼミナールの2年生18人。彼女たちは、まず、



商店街をまち歩きをした上で、3人一チームで6店舗に入ってヒアリングなどをして、以下のような魅力アップの提案を行いました。

- ・ **ペットショップ小泉** 動物写真を店内外に目立たせる  
(ポスター製作)
- ・ **文具のみつはし** 学祭キャンペーン、新ポイントカード
- ・ **レストラン「アヴァンクール」**  
学内ロッカーにPRチラシ  
お得な学生メニュー (スイーツセット)
- ・ **サンQ青果** 街頭アンケート (店選びのポイントなど)  
レシピの配布や掲示
- ・ **日の出水産** 街頭アンケート (店選び、利用頻度など)  
魚のさばき方講座
- ・ **東京堂書店** 武蔵生セレクトフェア  
ウエルカムボード

普段なかなか得られない女子学生からの新たな視点による様々なアイデアが出され、一部はすでに実現され、好評を得たようです。このような取り組みによって、個々の商店及び商店街全体の魅力アップが図られ、来客数や売上増加につながっていくとともに、地元の人々が、商店街により愛着を持ってもらい、ひいては地域活性化にもつながっていくことが期待されています。

### 【商店街の国際化】

もう一つは、北区ならではのユニークな商店街の国際化に向けた取り組みです。

北区は、外国人が全市の中で一番多く、このうち北大の留学生が約1,100人居住していると見込まれますが、これまで、あまり北24条商店街に足を運ぶ姿は見られませんでした。この中であって、市の「商店街みらい会議」において、国際化のアイデアが出され、「札幌で一番外国人が買い物しやすい商店街」を目指す取り組みが始まりました。

そのキックオフイベントが、平成26年11月1日に開催された「に～よんインターナショナルカフェ」です。商店主のほか、地域住民や行政、北大の留学生の窓口である国際支援課及び北大留学生協議会の会長も参加して立ち上げた実行委員会の主催です。



曲「Happy」に合わせて留学生らが椅子取りゲーム

札幌サンプラザの会場には、外国人住民や地域住民など約230名が参加。マレーシア、アゼルバイジャンやウイグルなど8つの国と地域からの留学生がお国の食べ物などを振る舞ったほか、文化の紹介や踊りが披露されました。また、店主らが米国歌手の曲「Happy」に合わせて踊ったPR動画をバックにした、椅子取りゲームなども実施され、多言語が飛び交う国際色豊かな会場で、参加者同士が交流を深めていました。



インドの文化と食べ物を留学生が紹介

さらに、商店街の若手で組織されるfrom24によって、平成27年1月25日には、に～よん国際餅つき大会が約50人の留学生が参加して幌北寺で開催されています。

北24条商店街では、今後も、定期的に留学生などを招いたカフェイベントを開催するなど様々な取り組みを行っていく予定です。

○お問い合わせ

北区市民部総務企画課

TEL.011-757-2403

# 1. 学生とともに進めるまちづくり

## 麻生キッチン“りあん”商学連携の取り組み

地域コーディネーター・かどまーる 代表 <sup>きた</sup>喜多 <sup>ようこ</sup>洋子

麻生キッチンりあんは、麻生商店街振興組合と藤女子大学食物栄養学科隈元ゼミが連携して運営しているお店です。ひとり親などのお子さんの学習支援を行い、栄養バランスのとれた食事を提案したり、毎日、お料理する人が変わるワンディシェフ方式で、将来お店を持ちたい方などにお店をまるごとお貸しし、食事を提供しています。麻生町の方に、お弁当を配達したり、料理教室やパーティー、講座などで貸出も行っています。また、商店街の方や地域の方が語り手となる“まちの教室”や“おしごとバー”というイベントを企画し、様々な人たちとの交流ができる場所を提供しています。



第1回まちの教室の様子

### 【きっかけ】

平成24年11月、札幌市経済局主催の「商店街活性化学生アイデアコンテスト」にて、藤女子大学生（食物栄養学科・隈元ゼミ）が準グランプリを受賞したことがきっかけでした。藤女子大学の学生が麻生に多く住んでいることで、麻生商店街振興組合に声がかかりました。

そのアイデアは、ひとり親などの子どもたちの居場所づくりと学習支援をしながら、カフェを併設し、学習支援をうけている子どもや保護者、地域の皆さんへ栄養バランスのとれた食事の提供をして、商店街を活性化しようというものでした。



藤麻人プレオープン！

### 【オープンまで】

平成25年3月23日に、実験的にやってみようということになりました。商店街の空き店舗を探し、たまたま、2月で閉店するという電気屋さんをお店にすることにしました。まだ、厨房がなかったため、学校で作ったお弁当を麻生まで運び、販売しました。商店街と一緒に学生がプロデュースするお店は珍しく、新聞、テレビの取材がたくさんやってきました。地域の方たちも応援してくれ、たくさんの方たちの声援を受けました。

平成25年8月2日に、札幌市の空き店舗活用事業「コミュニティ型」として札幌市からの補助金と麻生商店街振興組合からのバックアップで、厨房を設置し、本格オープンしました。お店の名前は、「へるすたでい <sup>とまん</sup>藤麻人」。健康的な食事提供（ヘルシー）と学習支援（スタディ）の造語で、“へるすたでい”。藤女子大学と麻生が結びつくように、そして、少し前に同じ空き店舗事業で始まった「三世代交流café <sup>あまん</sup>壱麻人」の妹のような存在なので、“藤麻人”と学生さんがすてきな名前をつけてくれました。お店の開設までには、たくさんの壁がありました。オープンできたのは、麻生商店街振興組合のみなさんの理解、また、このアイデアを実現させたいという学生たちと先生の熱い思いがあったからだと思っています。



## 【地域の様々な方たちとのひろがり ワンディシェフ】

当初、学生さんの食事提供の日が週2日とそのほかの日は、卒業生がヘルシーなランチやお弁当を提供していましたが、ワンディシェフという仕組みを取り入れました。プロの料理人ではない地域の住民が日替わりで、ランチを提供するシステムです。

800円のランチを20食提供し、場所代をいただき、運営費に充てるというやり方です。お料理が好きな方や将来お店を持ちたい方、自分の作った料理をみなさんに食べてほしいと思っている方などを募集しました。この呼びかけに、もと麻生で飲食店をしていたひるやさん、札幌学院大学の学生、自然栽培の野菜をつかった料理を提供したい方、野菜中心のランチを提供したい方、親子でおばんざいの料理を提供したい方などが、集まってくれました。ワンディシェフのいいところは、一人ではできないので、手伝いに入った人と交流ができる、コミュニティが広がるということです。ひるやさんに学生さんが入ることで、学生さんが、料理の学習ができたり、また、ひるやさんのお客様が、若い人と交流できたりする、すてきな関係が生まれました。藤女子の学生たちもこの方式に変えたことで、ただお料理を作るということだけでなく、経営を考えたりと主体的に取り組めるようになったと思います。20食完売してもシェフの手元には、わずかしかなかったりません。ワンディシェフの仕組みは、ビジネスの論理では割り切れない仕組みですが、新たなコミュニティの形成ということでは、商店街の活性化になっていると思っています。ワンディシェフの方式に変えたことで、平成26年5月から、お店の名称をフランス語でつながるの意味の“りあん”に変更しました。



学生がつくったランチです！

## 【学習支援と食支援】

学習支援の方は、NPO法人カコタムという団体と連携して行っています。そこにも学生が関わっています。藤女子の学生たちが、子どもたちとカコタムのメンバーに、栄養バランスのとれた献立を考え、食事を提供しています。また、食事をつくるだけでなく、子どもたちと一緒に食べることで、食事をする楽しさを子どもたちに伝えていきます。孤食が多い現代で、みんなで楽しく食事をするということは、子どもたちの心の成長にも良い影響を与えていますし、学生にとっても、共食（ともに食べるということ）がどんなに大切なことか実感する良い機会になっています。一緒に食べているところに、お邪魔したとき、とても楽しそうで、大切な場所を提供できているなど感じました。



ひとり親のための学習支援

## 2014年度の学生たちからのコメント

- ・自分たちで作成した献立に対するお客様の生の声をたくさん聴くことができました。
- ・地域の方々との交流もでき、いい経験となりました。
- ・藤麻人での活動を通じて、麻生に住んでいる方々と交流ができてとてもうれしかったです！
- ・麻生、大好きになりました♪1年間ありがとうございました！
- ・子どもたちとの共食を通して食事の楽しみを改めて学ぶことができました！
- ・地域の方々と直接触れ合え、いい経験ができました。約1年間ありがとうございました。

# 1. 学生とともに進めるまちづくり

## 【商学連携の今後】

りあんでの活動は、学生と地域の方、商店街の店主や理事の方など、様々な人と学生が触れ合える貴重な体験の場です。みんなで協力して調理したり、地域の人にあった献立を商店街の人やワンディシェフの人にも協力してもらいながら作ったり、地域の人たちからおいしい！ありがとう！がんばっているね！と声をかけられたり、時には、厳しい意見をいただいたりと生きる力を育む社会教育の場となっています。商店街にとっては、学生がまちでがんばっている場を提供することで、活気のある商店街を地域にプレゼントしています。そんなすてきな場所を提供できているあさぶ商店街は、すごいなと思います。今、商店街も地域も高齢化が進んでいます。私たちは、未来をつくる子どもたちのために、大人が協力して問題に取り組める良い機会を与えてもらっているんだなあと思います。未来を担う子どもたちに大人たちは、何ができるか！今、地域も商店街も、力を試されています。今後も商店街と学生の連携が進むよう、様々な人たちの力を借りながら、りあんの活動を

続けられるよう力を尽くしていきたいと思えます！



皆様のお越しをお待ちしています！

## ワンディシェフ募集中です！

○お問い合わせ

麻生商店街振興組合

TEL.011-707-9923

070-5048-4050 (喜多)

## コラム② 「コミュニティカフェ」って何!?

このページで紹介した「麻生キッチンりあん」のように、食や文化を通して人と人との「つながり」を深めていく「カフェ」のことを「コミュニティカフェ」と呼び、新たなまちづくり活動の場として注目され始めています。コミュニティカフェでは、コンサートや各種講座、地域の会議などが行われ、そこに集う人たちの憩いの場、交流の場となっています。

こうした人と人とのつながりは、日常の暮らしを豊かなものにするだけでなく、災害が起きた時や地域での子育て・見守り活動などに生かされ、地域力の向上にもつながっていきます。

あなたも身近なところにある「カフェ」に出かけてみてはいかがでしょうか？

新しい出会いがあるかもしれませんよ！

興味のある方はこちらもチェック！

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/gugenka/cmcafe/top.html>

検索

